

第9節 外国語

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料の作成に当たっては、「埼玉県中学校教育課程編成要領」、「埼玉県中学校教育課程指導資料」を踏まえ、各学校で学習指導における評価についての理解を深め、日常の指導と評価に役立ち、学習指導の充実に資することを編集の基本とした。

特に、各学校が生徒や地域の実態に即して学習評価を重視した指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図りつつ思考力・判断力・表現力等を育成し、「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価に役立てられる具体的な評価資料となるよう、次の諸点に配慮した。

- (1) きめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習内容の定着を図ることができるよう、「目標に準拠した評価」を基本とした「観点別学習状況の評価」や「評定」を一層重視した。
- (2) 学習評価を重視した年間、単元ごと、単位時間ごとの指導計画例を作成し、それを活用した学習評価の工夫改善例を示した。その際、多様な評価方法、評価場面を示せるように配慮した。
- (3) P D C Aサイクルの視点に立って、学習評価の結果を生かし、絶えず指導計画、授業、指導方法等を見直し工夫改善できるよう配慮した。
- (4) 学習評価の活用の視点から、多様な評価方法による観点別学習状況の評価と評定への総括についての基本的な考え方を示した。
- (5) 言語の使用場面や言語の働きを意識して外国語を運用できるコミュニケーション能力の基礎の育成に重点をおいた学習評価の具体例を示した。
- (6) 小学校外国語活動との関連に留意した。

2 取り上げた内容

上述の作成の基本的な考え方に基づき、次の内容を取り上げた。

- (1) 「外国語科における学習評価」【P.160】では、外国語科における学習評価の基本的な考え方や教科の目標と観点について述べる。
- (2) 「指導と評価の実際」【P.161～】では、学習評価計画の立案と評価計画作成の際の配慮事項、評価規準及びその設定例等について述べる。
- (3) 「指導計画及び具体的な学習評価の事例」【P.164～】では、内容のまとまりを基本として、各学年の年間指導計画（一部）、単元指導計画（一部）、1単位時間の指導計画（一部）の具体例を示す。
- (4) 「多様な評価方法」【P.173】では、評価テスト例及び自己評価・相互評価等について述べる。
- (5) 「指導と評価の一体化」【P.175】では、目標と学習評価の関係や学習評価を生かした指導の改善等について述べる。
- (6) 「小学校外国語活動との関連」【P.175】では、学習評価における小・中連携の留意点等について述べる。
- (7) 「長いスパンでの総括的評価計画」【P.176】では、評価から評定への総括方法の基本的な考え方等について述べる。

3 実践に当たって

本資料を活用し実践するに当たり、次の諸点に配慮されたい。

- (1) 今まで同様、「目標に準拠した評価」を基本とした「観点別学習状況の評価」や「評定」を一層重視すること。その際、各観点の趣旨を適切に踏まえた評価活動を行うよう努めること。
- (2) 一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価するよう努めること。
- (3) 生徒や保護者に、学習の評価についての情報を適切に提供できるようにすること。
- (4) 学校や生徒の実態等を踏まえ、学習評価の方法、場面、時期などを工夫すること。
- (5) 小学校外国語活動の実態を的確に把握し、連携が十分に図られるよう配慮すること。
- (6) 学習評価の妥当性や信頼性を高めるための工夫を図るとともに、学習評価に係る事務処理等の負担軽減についても考慮すること。

各学校においては、本資料にそれぞれの実態に合わせて創意工夫を加え、外国語科としての学力を捉え直して、確かで充実した外国語教育の実践を推進していくことが重要である。

第2 外国語科における学習評価

1 外国語科の学習評価の基本的な考え方

(1) 目標に準拠した評価の重視と深化

今回の学習指導要領の改訂において、自ら学び考える力などの「生きる力」をはぐくむことを目指すという理念が引き継がれた。これを踏まえ、これまでの学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図っていくことが重要である。きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、生徒の実態を的確に把握し、発達の段階に応じた具体的な到達目標を設定するとともに、生徒の学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定については、目標に準拠した評価としてより一層重視し深化させていくことが大切である。

(2) 学習指導要領等の趣旨の反映

学習指導要領の総則においては、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う」ことに努めなければならないことが示された。このことを踏まえ、外国語科においても基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等を相互に関連させながら伸ばしていくとともに、学習意欲の向上を図るという学習指導要領の趣旨を反映した評価活動を進めることが重要である。

(3) 指導と評価の一体化

学校の教育活動においては、計画、実践、評価、検証・改善という一連の活動が繰り返されながら生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されていく。学習評価の結果によってその後の指導を改善し、次の指導に生かすという視点が重要である。外国語科においても学習評価を通じて学校や生徒の課題を明確にし、その解決に向けた学習活動を推進するための授業や指導方法の改善に取り組むなど、指導と評価のより一層の一体化を進めることが大切である。【P.175】

(4) 小学校外国語活動との関連

小学校で外国語活動が必修化され、主に音声によるコミュニケーション能力の素地が育成されることを踏まえた学習評価となるよう、工夫する必要がある。そのために、小学校の取組について理解したり、入学時に生徒の外国語に関する実態を把握したりして、小学校での取組が生かされる指導と評価の計画を作成することが大切である。【P.175】

2 外国語科の目標と評価の観点

(1) 教科目標と評価の観点との関連

教科目標「外国語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」を受け、評価の観点として、基本的にこれまでの四つの観点が踏襲された。

- | |
|---|
| ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 |
| ② 外国語表現の能力 |
| ③ 外国語理解の能力 |
| ④ 言語や文化についての知識・理解
(<u> </u> 新しい付加事項) |

外国語科の目標との関連は、下線で示したような対応関係が見られる。
「外国語を通じて、④言語や文化に対する理解を深め、①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、②③聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」

「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」(部)については、外国語独自の「表現」や「理解」の能力を明確にするための付加であり、観点の趣旨は従来のものが踏襲されている。

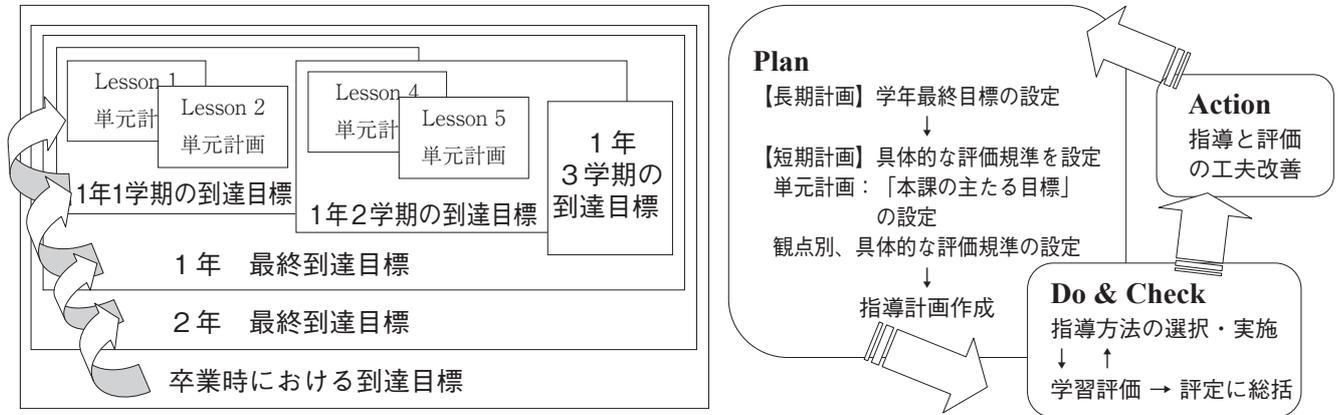
(2) 評価の観点及びその趣旨

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣 旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

第3 指導と評価の実際

1 学習評価計画の立案

指導計画と学習評価計画は表裏一体の関係にある。まず到達目標を決め、そのための手立て（指導）を考えることが重要である。学習評価計画には短期のものと長期のものがあるが、短期のものは主に特定の下位技能や言語材料の習得が評価対象となる。総合的なコミュニケーション能力の育成のためには、長期的な展望に基づいた学習評価計画も立てる必要がある。



また、「評価の観点及びその趣旨」に基づき、4領域（内容のまとまり）の「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」における四つの評価の観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」を考慮し、どの規準を指導過程のどの部分で、どのような方法で評価するかなどについて、全体を見通して計画を立てるようにする。

2 評価計画作成の際の配慮事項

- 学習評価は指導した活動（内容）に関して、長期的な視点に立ち、十分に指導を行った段階で行う。
学習評価とは、指導したことが評価規準（到達目標）に到達したかどうかを測ることであり、十分に指導を行った段階で行うものである。したがって、生徒の学習活動の度に行われなければならないというものではない。
- 適切な方法で評価する。
評価する際には、評価対象を的確に評価しなければならない。そのためには、その対象を測るのに最もふさわしい方法を用いることが大切である。「多様な評価方法」【P.173】に記したように、ペーパーテストのみならず、生徒の活動の様子を観察したり、生徒のパフォーマンスを通してコミュニケーション能力を測ったりする方法を用いて、学習評価の妥当性を高める必要がある。
- 評価の観点によっては、それぞれの評価規準について複数回の評価場面を設定する。
「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」などは複数回の評価を行う必要がある。活動内容、話題、場面などにより、できたりできなかったりする可能性があるからである。このような考え方に立って、能力の深まりや高まりを見るには、どのような活動内容、話題、場面であっても対応できるかどうかの安定性から判断する必要がある。また、信頼性を一層高めるためにも、それぞれの学校が生徒の実態に即したより具体的な評価規準を設定することが大切である。
- 実用性の高い学習評価計画を立てる。
学習評価の実用性とは、その評価方法の実施（例：テストの作成、実施、採点等）に必要な物理的設備、人的労力、時間などが現実的に可能なレベルか否かということである。継続的に行うためにも、シンプルで汎用性のある学習評価計画を立てることが重要である。

3 評価規準及びその設定例

次ページ以降【P.162～163】に評価規準に盛り込むべき事項と評価規準の設定例を示した。各学校では、これらを参考にして、生徒の実態や地域の実情に応じてより具体化した文言で表す必要がある。それぞれの評価規準ごとに、「A：十分満足できる状況」「B：おおむね満足できる状況」「C：努力を要する状況」のいずれの段階にあるのかを判断する。評価の観点によっては、複数回の評価場面を設定し、A、B、Cの割合で総括し評価を出す。例えば、規準を超えれば○、超えなければ×で判断し、常にできていて安定性が高い場合はA、○が1度もなければCとするなどである。

<外国語科の目標>

※国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成のための参考資料」を観点別に整理

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

<評価の観点及びその趣旨>

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

<内容のまとめりととの目標と言語活動>

	聞くこと (L)	話すこと (S)	読むこと (R)	書くこと (W)
目標	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。	英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。
言語活動	(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。	(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。 (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。	(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。 (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。	(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。 (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

観点	内容	言活	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の設定例
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	聞くこと (L)	(ウ)	「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	(言語活動への取組) ・相づちをうったりメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。 ・聞いたことについて簡単な言葉や動作などで反応している。
		(エ)	様々な工夫をして、聞き続けようとしている。	(コミュニケーションの継続) ・相手に聞き返すなどして言われたことを確認しながら聞き続けている。
		(オ)		
	話すこと (S)	(ウ)	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	(言語活動への取組) ・間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。 ・聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 ・問答したり意見を述べ合ったりなどしている。
		(エ)	様々な工夫をして、話し続けようとしている。	(コミュニケーションの継続) ・つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。 ・身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。
		(オ)		
	読むこと (R)	(イ)	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	(言語活動への取組) ・読んだことについて、メモをとったり簡単な言葉や動作などで反応したりしている。 ・辞書を活用して読んでいる。 ・積極的に音読している。
		(エ)	様々な工夫をして、読み続けようとしている。	(コミュニケーションの継続) ・繰り返して読んだり読み返したりして読み続けている。
		(オ)		
	書くこと (W)	(ウ)	「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	(言語活動への取組) ・間違ふことを恐れず積極的に書いている。 ・読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。 ・辞書を活用して書いている。
		(エ)	様々な工夫をして、書き続けようとしている。	(コミュニケーションの継続) ・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。
		(オ)		

観点	内容	言活	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の設定例
外国語表現の能力	話すこと⑤	(ア)	自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。	(正確な発話) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。
		(イ)(ウ)(エ)(オ)	場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。	(適切な発話) ・場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ・尋ねられたことに対して適切に回答することができる。 ・適切な声量や明瞭さで話すことができる。 ・聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 ・与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。
	読むこと⑥	(ア)	英語を正しく音読することができる。	(正確な音読) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。
		(イ)	英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。	(適切な音読) ・意味内容にふさわしく音読することができる。 ・適切な声量や明瞭さで音読することができる。
	書くこと⑦	(ア)	自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。	(正確な筆記) ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。
		(イ)(ウ)(エ)(オ)	目的に応じて英語で適切に書くことができる。	(適切な筆記) ・場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ・感想や内容に対する賛否に加えてその理由を書くことができる。 ・内容的にまとまりのある文章を書くことができる。

観点	内容	言活	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の設定例
外国語理解の能力	聞くこと⑧	(ア)	英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。	(正確な聞き取り) ・強勢やイントネーション、区切りなどの特徴をとらえて聞き取ることができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。
		(イ)(ウ)(エ)(オ)	場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。	(適切な聞き取り) ・話されている内容から話し手の意向を理解することができる。 ・質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 ・まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。
	読むこと⑨	(ウ)	英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。	(正確な読み取り) ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。
		(エ)(オ)	目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。	(適切な読み取り) ・あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 ・書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 ・伝言や手紙などを読んで、その内容にあわせて適切に応じることができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読み取ることができる。 ・話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。

観点	内容	言活	評価規準に盛り込むべき事項	評価規準の設定例
言語や文化についての知識・理解	聞くこと⑩	(ア)	英語やその運用についての知識を身に付けている。	(言語についての知識) ・発音の違いや音変化に関する知識を身に付けている。 ・基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。
				(文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。
				(言語についての知識) ・発音の違いに関する知識を身に付けている。 ・基本的な強勢の違いを理解している。 ・基本的なイントネーションの違いを理解している。 ・基本的な区切りについて理解している。 ・話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを知っている。
				(文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。
読むこと⑪	(ア)		(言語についての知識) ・基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 ・語句や文、文法などに関する知識を身に付けている。	
			(文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。	
書くこと⑫	(ア)	(イ)		(言語についての知識) ・文字や符号を使い分ける知識を身に付けている。 ・文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。 ・正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。
				(文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

4 指導計画及び具体的な学習評価の事例

(1) 第1学年 「話すこと」を重視した指導計画及び指導と評価例
ア 年間指導計画例

学期ごとに到達目標を掲げ、方向性を示し、身に付けさせたい力を明確にし、指導と評価の一体化を図る。

第1学年2学期の到達目標：基本的な英語表現を用いて、友達などを紹介できる力をつける。

月	課(時)	題材	目標	言語活動		☆	★			
				☆言語の使用場面	★言語の働き					
9月	4時間扱い	「わたしの一日、友達の日」	<ul style="list-style-type: none"> ○「一日の生活」(Daily Routine)の表現を理解し、それを用いて自分の生活について紹介する。 ○間違えることを恐れず、友達に「一日の生活」について英語でインタビューする。 ○友達の「一日の生活」について紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の一日の生活を語ろう。「一日の生活」を紹介する時に使われる表現を用いて自分の「一日の生活」を班内で発表する。 ◎友達に英語でインタビューしよう。友達の「一日の生活」について英語でインタビューする。 ◎友達の「一日の生活」を紹介しよう。インタビューを基に紹介文を作り、発表する。 	b	c	a	a	b	c

イ 単元計画 Let's Talk! 「わたしの一日、友達の日」(4時間)

① 本課の指導に当たっての考え方(教材観・指導観)

本課では、「一日の生活」(Daily Routine)の表現を学び、それを用いて自分や友達の一日の生活について英語後の活動など英語でインタビューし、それを基に友達の一日の生活についても紹介できる力を養う。

② 目標

○一日の生活(Daily Routine)の表現を理解し、それを用いて自分や友達の生活について紹介する。 ○間違える
○友達の「一日の生活」について紹介する。 ○「一日の生活」について尋ねたい内容に適した英語の質問

③ 指導と評価の計画(例) * 1単位時間の指導と評価例は【P.170】を参照

時間	◆ねらい ・学習活動	評価の観点			
		(関)	(表)	(理)	(知)
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・Warm-upとして「起床時刻」や「就寝時刻」について対話する。 ◆自分の「一日の生活」を紹介するときの表現を理解する。 ・教科書で用いられている「一日の生活」を紹介する時に使われる表現をまとめる。 				○
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆友達の「一日の生活」についてインタビューするための表現を理解する。 ・「一日の生活」についての質問で用いられる表現をまとめる。 				○
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◆積極的に友達に「一日の生活」についてインタビューし、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・班内でペアになりインタビューの練習をする。 ・「中学生の生活調査」の場面を想定して、友達3人にインタビューをする。 ・上記の活動に加えて、教師のところへも来てインタビューをする。 ・インタビューを基に、それぞれの友達の「一日の生活」を書いてまとめる。 	○	○	○	
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆友達の「一日の生活」を発表する。 ・インタビューの結果を班内で発表する。 ・全体の前で発表する。 				○
後日	<ul style="list-style-type: none"> ◇「一日の生活」(Daily Routine)を紹介したり、インタビューしたりする際の知識に関する問題 ◇「一日の生活」(Daily Routine)に関するダイアログ・テスト 		◎		◎

○は形成的な評価を表し、生徒の状態を把握して指導の改善を図るための評価である。

◎は総括的な評価を表し、記録に残して評定へと総括するための評価の観点である。

「理解の能力」に関しては、この単元では評価しない。

※☆言語の使用場面 a: 特有の表現がよく使われる場面 b: 生徒の身近な暮らしにかかわる場面

★言語の働き a: コミュニケーションを円滑にする b: 気持ちを伝える c: 情報を伝える d: 考えや意図を伝える e: 相手の行動を促す

※関、表、理、知→コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解

【P.162】参照

言語材料	内容のまとめ				評価規準	評価の観点				小学校及び他学年、他教科との関連	
	聞	話	読	書		関	表	理	知		
・ 連語 ・ 重要表現 get up / go to bed / walk to / leave home / after school / before dinner What time do you ~? How do you ~? When do you ~?		(ウ)		(エ)	・ 「一日の生活」を紹介する表現を知っている。 ・ 積極的にインタビュー活動に取り組んでいる。 ・ 友達の「一日の生活」について正しく伝えることができる。		○		○	○	小学校外国語活動 英語ノート2 Lesson 7 「自分の一日を紹介しよう」

で話せる力を養う。また、“What time do you ~?” “When do you ~?” の表現を用いて「起床時刻」や「就寝時刻」、「放課

年間指導計画における「単元の評価規準」と単元計画における「単元の評価規準 (◎)」は対応している。

ことを恐れず、友達に「一日の生活」について英語でインタビューする。

をする。

○形成的評価 ◎総括的評価へ

評価規準	評価方法
凡例：＜内容のまとめ：L 聞くこと、S 話すこと、R 読むこと、W 書くこと＞	
○（言語についての知識）「一日の生活」を紹介する表現を知っている。	○授業後ワークシート分析
○（言語についての知識）「一日の生活」について質問する表現を知っている。	○授業後ワークシート分析
◎（言語活動への取組）積極的にインタビュー活動に取り組んでいる。＜S＞	◎行動観察
○（適切な発話）尋ねたい内容に適した質問ができる。＜S＞	○行動観察
○（適切な筆記）友達の「一日の生活」を適した表現で書くことができる。＜W＞	○授業後ワークシート提出
○（言語活動への取組）聞き手が理解しやすいように工夫して発表している。＜S＞	○行動観察
◎（言語についての知識）「一日の生活」を紹介したり、インタビューしたりするのに必要な語句や表現を知っている。	◎ペーパーテスト
◎（適切な発話）友達や自分の「一日の生活」を紹介することができる。尋ねたい内容に適した質問ができる。＜S＞	◎ダイアログ・テスト

授業後など別の機会に評価する場合もある。

* 1 単位時間の指導と評価例【P.170】に続く

(2) 第2学年 「書くこと」を重視した指導計画及び指導と評価例

ア 年間指導計画例

第2学年2学期の到達目標：これまで学んだ表現を使って、自分の考えや気持ちを表現できる力をつける。

月	課(時)	題材	目標	言語活動		☆	★
				☆言語の使用場面	★言語の働き		
9月	6時間扱い	Lesson 4 Our Dreams	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の夢」について、自分の考えや気持ちを相手に伝える。 ○うまく書けないところがあっても、今まで学んだ語句や表現を用いて、書き続ける。 ○「自分の夢」について、まとまりのある英文で相手に正しく伝える。 ○不定詞の用法を理解する。 	◎“My Dream” 自分の夢を語ろう！ (英作文) 【書く→話す】		b	d

書く活動から話す活動へ
学習評価を見据え、効果的で工夫ある言語活動を設定する。

イ 単元計画 Lesson 4 Our Dreams (6時間)

① 本課の指導に当たっての考え方(教材観・指導観)

本課は、夏休みのホームステイ先で、カナが会った中学生達と自分の将来について話し合うという内容である。これらの夢の紹介文を参考に、不定詞を効果的に用いながら、“My Dream”というタイトルで自分の夢について英

② 目標

- 「自分の夢」について、自分の考えや気持ちを、相手に伝える。 ○うまく書けないところがある
- 「自分の夢」について、まとまりのある英文で相手に正しく伝える。 ○不定詞の用法を理解する。

③ 指導と評価の計画(例) *1単位時間の指導と評価例は【P.171】を参照

時間	◆ねらい ・学習活動	評価の観点			
		(関)	(表)	(理)	(知)
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ Warm-upとして教師の夢を聞く。 ◆不定詞(名詞的用法)の文の構造を理解する。 ・ 不定詞(名詞的用法)を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文を通して、不定詞の用法を理解する。 	○			○
2	◆不定詞(副詞的用法)の文の構造を理解する。				○
4本時	<ul style="list-style-type: none"> ◆間違ふことを恐れず、自分の夢について、積極的に英作文に取り組む。 ◆学んだ語句や表現を適切に用いて、英文を書く。 I'm going to~, I want to be~because~, I'll~to be~など ◆自分の将来に対する考えを、まとまりのある5文以上の英文で表現する。 	◎	○		○
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の作成した英文を発表する。 ・ ペアワークにおいて、表現豊かに音読練習に取り組む。 ・ 「自分の夢」について、自分の考えや気持ちを相手に正しく伝える。 	○	○		
後日	◇「自分の夢」について学んだ表現を用いて書く問題		◎		◎

「理解の能力」に関しては、この単元では評価しない。

※☆言語の使用場面 a: 特有の表現がよく使われる場面 b: 生徒の身近な暮らしにかかわる場面

★言語の働き a: コミュニケーションを円滑にする b: 気持ちを伝える c: 情報を伝える d: 考えや意図を伝える e: 相手の行動を促す

※※関、表、理、知→コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解

【P.162】 参照

言語材料	内容のまとめ				評価規準	評価の観点				小学校及び他学年、他教科との関連
	聞	話	読	書		関	表	理	知	
・ to 不定詞 ①名詞的用法 ②副詞的用法 ③形容詞的用法			(オ)		・「自分の夢」についての作文に積極的に取り組み、書いている。	○				社会体験チャレンジ 小学校外国語活動 英語ノート2 Lesson 9 「将来の夢を紹介しよう」
			(イ)		・今まで学んだ語句や表現を用いて、5文以上書き続けている。	○				
			(オ)		・“My Dream”のタイトルで、まとまりのある英文を書き、相手に正しく伝える。			○		
			(ア)		・不定詞の用法を理解している。				○	

年間指導計画における「単元の評価規準」と単元計画における「単元の評価規準(◎)」は対応している。

不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を用いながら、3人の中学生の夢が具体的に書かれている。したがって、文を書き、仲間に紹介できる力を養う。

でも、今まで学んだ語句や表現を用いて、書き続ける。

○形成的評価 ◎総括的評価へ

評価規準		評価方法
凡例：＜内容のまとめ：L 聞くこと、S 話すこと、R 読むこと、W 書くこと＞		
○（言語活動への取組）	夢に関する英語を興味や関心をもって聞いている。＜L＞	○行動観察
○（言語についての知識）	不定詞（名詞的用法）を用いた文の構造を理解している。	○授業後ワークシート分析
○（言語についての知識）	不定詞（副詞的用法）を用いた文の構造を理解している。	○授業後ワークシート分析
◎（言語活動への取組）	間違うことを恐れず、積極的に「自分の夢」の英作文に取り組んでいる。＜W＞	◎行動観察 ○作品評価
○（言語についての知識）	学んだ語句や表現を適切に用いて、英文を書くことができる。＜W＞	
○（適切な筆記）	自分の将来に対する考えを、まとまりのある5文以上の英文で表現している。＜W＞	◎作品評価
◎（コミュニケーションの継続）	うまく書けないところがあっても、5文以上書き続けている。＜W＞	
○（言語活動への取組）	ペアワークにおいて、表現豊かに音読練習に取り組んでいる。＜R＞	○行動観察
○（適切な発話）	「自分の夢」について、自分の考えや気持ちを相手に正しく伝える。＜S＞	○行動観察
◎（正確な筆記）	自分の夢について、学んだ表現を活用しながら正確に書いている。＜W＞	◎ペーパーテスト
◎（言語についての知識）	不定詞の用法を理解している。	

* 1 単位時間の指導と評価例【P.171】に続く

(3) 第3学年 「読むこと」を重視した指導計画及び指導と評価例

ア 年間指導計画例

第3学年2学期の到達目標：本文の内容を正しく理解し、その内容が相手に伝わるよう自分なりの英文で表現する力を										
月	課 (時)	題材	目標	言語活動		☆	★			
				☆言語の使用場面	★言語の働き					
9	6 時間 扱い	A Wish for World Peace 戦争中原爆の被害にあい、犠牲となった人の悲しい物語	○物語を読んで、戦争の悲惨さと平和の尊さなど、概要や要点を理解する。 ○間違うことを恐れずに積極的に音読する。 ○音声面に気を付け、聞き手を意識しながら、英文を正しく音読する。 ○物語の内容についての要約文や感想を英文で表現する。	◎教科書の新出語句や本文の内容を確認しよう。 ◎物語の内容が相手に伝わるように音読しよう。 物語を相手に内容が伝わるように英語で互いに読み合い、相互評価をする。(活動後はワークシートを回収する。) ◎絵を用いて要約文を発表しよう。 教科書の本文の内容について英語で要約文を書き、絵を用いて発表する。	a	c	b	a c	b	c d

イ 単元計画 Lesson 4 A Wish for World Peace (6時間)

① 本課の指導に当たっての考え方(教材観・指導観)

本課は戦争の被害にあった人の物語からその悲惨さと平和の尊さを読み取る。戦争や平和に関する単語や語句な活動へと広げる。

② 目標 ○物語を読んで戦争の悲惨さと平和の尊さなど、概要や要点を理解する。 ○音声面に気を付け、聞き

③ 指導と評価の計画(例) *1単位時間の指導と評価例は【P.172】を参照

時間	◆ねらい ・学習活動	評価の観点			
		(関)	(表)	(理)	(知)
1	◆本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・新出単語や語句を通して戦争や平和に関する背景の知識を得る。				
2	◆単語の発音や文の意味、構造を理解する。 ・教科書本文を通して、文の意味や構造を知り、その使い方を理解する。				○
3	◆教科書に書かれた本文の内容を理解する。 ・CDを聞いたり、本文を読んだりしてあらすじを読み取る。			○	
4 本時	◆間違うことを恐れずに積極的に音読する。 ◆書かれた内容が表現されるよう音読する。 ・「基礎音読コース」と「チャレンジ音読コース」に分かれて読む。	◎	○		
6	◆要約文を作成し、絵を用いて発表する。 ・ワークシートを配り、絵を見ながら要約文を作成する。 ・班ごとに代表を選出して発表する。	◎	○		
後日	◇戦争の悲惨さや平和の尊さについての読解問題 ◇本文の音読テスト ◇物語について、自分の感想や考えを3文以上の英文で作成する問題		◎	◎	◎

※☆言語の使用場面 a: 特有の表現がよく使われる場面 b: 生徒の身近な暮らしにかかわる場面

★言語の働き a: コミュニケーションを円滑にする b: 気持ちを伝える c: 情報を伝える d: 考えや意図を伝える e: 相手の行動を促す

※※関、表、理、知→コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解

言語材料		内容のまとめ		評価規準	評価の観点				小学校及び他学年、他教科との関連		
		聞	話		読	書	関	表		理	知
・連語・重要表現 burn die of look ・単語 World War II atomic bomb peace / peaceful		(ウ) (ア) (ア) (イ) (ウ) (オ)		(ウ) (ウ)		・物語の概要や要点を理解できる。 ・単語の発音と文の意味や構造の違いを理解している。 ・積極的に音読している。 ・音声面に気を付け、聞き手を意識しながら音読することができる。 ・物語についての感想などまとめのある英文を書くことができる。	○		○		社会 「第2次世界大戦」 道德 「世界平和」 「人類愛」 こころのノート

この題材では、読むことを重点的に取り上げるため、特に、聞くことについては評価規準を設定しない。

を通して、本文の内容の理解を深める。そして聞き手を意識した音読を行い、内容について英語で要約文を作成し、書く

手を意識しながら、英文を正しく音読する。 ○物語の内容についての要約文や感想について英文で表現する。

○形成的評価 ◎総括的評価へ

評価規準	評価方法
凡例：＜内容のまとめ：L 聞くこと、S 話すこと、R 読むこと、W 書くこと＞ 社会科的知識の内容は評価せず、言語の背景にある文化に限って評価する。	
○（言語についての知識）語句や文、文法などに関して理解している。	○後日ペーパーテスト
○（適切な読み取り）書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。＜R＞	○行動観察、ワークシート分析 ○後日ペーパーテスト
◎（言語活動への取組）積極的に音読している。＜R＞ ○（正確な音読）正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。＜R＞ ○（適切な音読）意味内容にふさわしく音読することができる。＜R＞	◎行動観察、ワークシート、相互評価シート ○後日音読テスト
○（適切な筆記）文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。＜W＞ ◎（言語活動への取組）協力してグループで取り組みながら、自ら学んだ表現などを使っている。＜S＞	○授業後ワークシート分析 ◎発表
ビデオカメラやボイスレコーダに記録し、生徒にフィードバックすると効果的な評価ができ、次につながる活動となる。	
◎（適切な読み取り）書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。＜R＞ ◎（正確な音読）（適切な音読）正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて、意味内容にふさわしく音読することができる。＜R＞ ◎（適切な筆記）感想や内容に対して、理由も含めて書くことができる。＜W＞	◎ペーパーテスト ◎音読テスト ◎ペーパーテスト

* 1 単位時間の指導と評価例 【P.172】 に続く

ウ 1 単位時間の指導と評価例（第 1 学年）

- ① 本時のねらい（目標） ←-----
- ◆積極的に友達に「一日の生活」についてインタビューし、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

1 単位時間のねらいは的を絞り、ねらいと評価規準が対になるようにして、指導と評価の一体化を図る。また、この「ねらい」と「評価規準」は【P.164～P.165】の「単元計画」と対応している。

- ② 評価規準（◎総括的評価へ ○形成的評価）
- ◎（言語活動への取組）積極的にインタビュー活動に取り組んでいる。＜S＞ ←-----
- （適切な発話）尋ねたい内容に適した質問ができる。＜S＞
- （適切な筆記）友達の「一日の生活」に適した表現で書くことができる。＜W＞

- ③ 授業の位置付け
- 小学校でふれた 1 日の生活の表現（Daily Routine）に関するインタビュー活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに豊かな表現力を身に付けさせる。

- ④ 教具
- ワークシート（「わたしの一日」・「インタビュー」・「紹介文」） Picture Card 英和・和英辞書 教科書

⑤ 展開

過程	学習活動《形態》・学習内容	評価規準との関連	・指導上の留意点 ◎総括的評価へ ○形成的評価
W-Up 15 分	1 あいさつ・歌《一斉》 2 Bingo Game “Daily Routine” ・新出表現の定着を図る。		・英語の授業の雰囲気を作る。 ・楽しみながら基本表現に触れ、定着を図る。
導 入 10 分	3 Review ・音読練習（教科書のモデル文の Reading）《一斉》 ・質問文の確認と練習《一斉》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">起床時刻：What time do you get up？ 通学手段：How do you come to school？ 放課後：What do you do after school？ etc</div> ・班内練習 《グループワーク》		・Repeat, Read & Look Up, Shadowing など様々な音読を行う。 ・リズムよく、テンポよく飽きさせずに数多くくり返す。 ・班内でペアになりインタビューの練習を行う。必要に応じて班員同士で教え合う。
展 開 20 分	4 インタビュー活動 《ペアワーク》 ・指定された 3 人のクラスメイトに英語で質問をする。 ・活動中 JTE か ALT にもインタビューする。 5 紹介文の作成 ・ワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Hiroshi gets up at six. He walks to school. He plays soccer after school.</div>	(関)言語活動への取組 (表)適切な発話 (表)適切な筆記	◎積極的にインタビュー活動に取り組んでいる。 ○尋ねたい内容に適した質問ができる。 ○友達の「一日の生活」に適した表現で書くことができる。 ・三人称単数や三人称複数の文になることを意識させる。
ま と め 5 分	6 本時の振り返り ・Listening ALT または JTE の友達紹介を聞く。 ・自己評価 STEP カードに記入する。 7 あいさつ		・次回の活動が分かる丁寧なデモンストレーションを行う。 ・活躍した生徒を評価する。

- ⑥ 評価上の留意点 インタビューの応答に関する評価は、後日のダイアログ・テストで行う。

ウ 1 単位時間の指導と評価例（第 2 学年）

① 本時のねらい（目標）

- ◆間違うことを恐れず、自分の夢について、積極的に英作文に取り組む。
- ◆学んだ語句や表現を適切に用いて、英文を書く。（I'm going to~, I want to be~because~, I'll~to be~など）
- ◆自分の将来に対する考えを、まとまりのある 5 文以上の英文で表現する。

② 評価規準（◎総括的評価へ ○形式的評価）

- ◎（言語活動への取組） 間違うことを恐れず、積極的に「自分の夢」の英作文に取り組んでいる。＜W＞
- （言語についての知識） 学んだ語句や表現を適切に用いて、英文を書くことができる。＜W＞
- （適切な筆記） 自分の将来に対する考えを、まとまりのある 5 文以上の英文で表現している。＜W＞
- ◎（コミュニケーションの継続） うまく書けないところがあっても、5 文以上書き続けている。＜W＞

③ 授業の位置付け

これまでに学んだ不定詞表現を“My Dream”の英作文の中で実際に使い定着を図るとともに、自分の考えを表現する場面によく使われる表現を学び、自分の将来の夢や憧れの職業について、5 文以上のまとまりのある英文を作成する時間とする。

④ 教具 ワークシート（※レベル A レベル B） 英和辞書 和英辞書

※生徒の実態に合わせて、英文を作成するための手助けとなるよう、2 種類のワークシートを用意する。

⑤ 展開

過程	学習活動《形態》・学習内容	評価規準との関連	・指導上の留意点 ◎総括的評価へ ○形式的評価	
W-Up 10分	1 あいさつ・歌《一斉》 2 Small talk《個人》		・英語の授業の雰囲気を作る。 ・将来の夢について聞き、関連を図る。	
導入 15分	3 本時の活動目標を確認する。《一斉》 4 「○○先生の夢」を読もう。《一斉》 5 ALT の音読を聞いて、見えそうな表現をチェックしよう。 《一斉またはペア》 6 Useful Expressions の確認と練習 《一斉》 ・I'm going to~, I want to be~because, I'll~to be~など	<p>夢は big に語ろう！</p> <p>2-() () 番 ()</p> <p>自分の将来の夢、近い将来、憧れを語ろう。こんなだったら思いでも良いよ、自分のファイルに書き込めよ。できるだけたくさんよう。</p> <p>※岸先生の夢</p> <p>オーストラリアに行って、美しい海とエアースローックを</p> <p>Hello, everyone. I like English. I am an English t</p> <p>go to Australia. I want to stay there for a few</p> <p>speak English more. I live in Saitama. We don't h</p> <p>want to enjoy the beautiful sea. I think Australia is</p> <p>enjoy its nature. I also want to see the Aires Rock</p>	<p>身近な先生の夢を読ませるワークシートを用いることで、興味付けを行う。</p> <p>・目標とする英文例を示し、生徒の意欲を高める。 ・英文のパターンを示し、これらの表現を使ったり、一部をかえて、自分自身の英文を作ったりするよう指導する。</p>	
展開 20分	7 “My Dream” 自分の夢を語ろう。 《一斉》 作文活動	<p>My Dream</p> <p>Hello, my name is (es) .</p> <p>I'm a student at Nishi Junior high school.</p> <p>I like (easscc) very much.</p> <p>I practice (easscc) after school every day.</p> <p>I want to go to high school and play it more.</p> <p>I like (easscc) very much.</p> <p>I want to be a (eass) like him/her) .</p> <p>So I have to study and practice (easscc) now.</p> <p>I have many things to do now. Please cheer me up!</p>	<p>(関)言語活動への取組 (知)言語についての知識 (表)適切な筆記 (関)コミュニケーションの継続</p>	<p>◎間違うことを恐れず、積極的に「自分の夢」の英作文に取り組んでいる。 ・まったく書けない生徒については、レベル B（穴埋め式）のワークシートを提示する。 ○学んだ語句や表現を適切に用いて、英文を書いている。 ○自分の将来に対する考えを、まとまりのある 5 文以上の英文で表現している。 ◎うまく書けないところがあっても、5 文以上書き続けている。</p>
まとめ 5分	8 学習の整理《一斉》 9 あいさつ		・終わった生徒は提出させ、添削をうけさせる。	

書けない生徒にはレベル B（穴埋め式）も用意し、さらに 1～2 文付け加えさせるよう指導する。

⑥ 評価上の留意点

「外国語表現の能力」の中の「正確な筆記」、「言語についての知識」の評価を行うためには、今回の作品だけで評価するのではなく、添削した後の予告したテストにおいて書かれた英文を評価する。

ウ 1 単位時間の指導と評価例（第3学年）

- ① 本時のねらい（目標）
 - ◆間違えることを恐れずに積極的に音読する。
 - ◆書かれた内容が表現されるよう音読する。
- ② 評価規準（◎総括的評価へ ○形式的評価）
 - ◎（言語活動への取組）積極的に音読している。＜R＞
 - （正確な音読）正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。＜R＞
 - （適切な音読）意味内容にふさわしく音読することができる。＜R＞
- ③ 授業の位置付け

これまで学んだ戦争や平和に関する単語や語句を用いた物語の理解を深めながら、音読活動を通して適切に場面や心情に応じて読むことに取り組み、英語表現の幅を広げる時間とする。
- ④ 教具 ワークシート ステッカー CD ラジカセ ボイスレコーダーやVTR（生徒の取組が記録できるもの）
- ⑤ 展開

過程	学習活動《形態》・学習内容	評価規準との関連	・指導上の留意点 ◎総括的評価へ ○形式的評価			
W-Up 10分	1 あいさつ・歌《一斉》 2 Daily Conversation《ペア》 ・あいさつ後、英語の歌を歌う。 ・今日の英会話の練習をする。		・元気に歌い、英語の授業の雰囲気を作る。 ・英語を用いて関心をもって問答などする。			
導入 10分	3 Listening《一斉》・本文の内容の確認。 4 Dictation《一斉》・全員で chorus reading 5 Reading Aloud《一斉》 《グループ》 ・「基礎音読コース」と「チャレンジ音読コース」に分かれて、それぞれ音読する。		・内容が理解できるよう質問を工夫する。			
展開 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">音読する前に個々に目標を設定させ、評価の観点も明示して活動する。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○基礎音読コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンク（区切り）ごとに日本語と英語を交互に読む。 ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを意識し、できる限り正確に音読する。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>○チャレンジ音読コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2分間にどれだけ読むことができるかチャレンジする。 ・読み合い（ペアになって、相手に気持ちや内容が伝わるように読む。お互い評価する。） </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3rd grade Reading Sheet Progressive Lesson 4-3</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">They walked around</td> <td style="padding: 2px;">彼らは①（ ）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">the burned-Out city</td> <td style="padding: 2px;">焼け払われた町を</td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意味のまとめごとになった音読シートを用意し、強勢や抑揚を記号で加え、読み方を工夫し、生徒相互でも評価の観点を意識させる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相互評価シート（基礎音読コース） パートナーの名前</p> <p>★各項目の満する自己評価の数字に○を付けなさい。</p> <p>（※評価の数字は4が最も高く、1が最も低いことを示しています。）</p> <p>1 パートナーは職き手を意識して音読しましたか。 4</p> </div>	They walked around	彼らは①（ ）	the burned-Out city	焼け払われた町を	<p>（関）言語活動への取組 （表）正確な音読 （表）適切な音読</p> <p>◎自らコースを選択し、積極的に音読している。 ○正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読している（各コース共通）。 ○場面や心情に応じて音読している（各コース共通）。</p>
They walked around	彼らは①（ ）					
the burned-Out city	焼け払われた町を					
まとめ 5分	6 Evaluation ・本時の自己評価を記入し、授業を振り返る。 7 あいさつ 《一斉》		・今日の授業を振り返り、自己評価を行わせる。			

- ⑥ 評価上の留意点 音読指導は日々の積み重ねが重要であり、本授業に限らず毎回の授業で繰り返し行い、行動観察やワークシート、相互評価カード等でその上達の度合いを補助簿に記録し蓄積して、継続的に評価していくことが大切である。

5 多様な評価方法

(1) 評価テストの例

小テストや1単位時間に行う形成的評価とは別に、生徒の到達度を測る総括的評価として、筆記による定期テストや生徒に実演を求めるパフォーマンステストなどの多様な評価方法がある。そこで、定期テストの作成・実施上の留意点やパフォーマンステスト実施上の留意点など、その具体的な実践例及び学習評価例を示す。

ア ペーパーテスト

(ア) 作成上の留意点

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| ① コミュニケーション能力の評価が重視されているか。 | (コミュニケーション能力の評価) |
| ② 授業での指導事項が適切な評価方法等で評価されているか。 | (指導と評価の一体化) |
| ③ 指導事項の評価規準が明確になっているか。 | (目標に準拠した評価) |
| ④ 内容のまとまりごとに観点が押さえられているか。 | (観点の明確化) |
| ⑤ 各設問が、具体的な評価規準に基づいて作成されているか。 | (具体的な評価規準の設定) |
| ⑥ 配点が適切に設定されているか。 | (適切な配点の設定) |
| ⑦ 採点基準があらかじめ明確になっているか。 | (採点基準の明確化) |

(イ) 定期テストにおける「聞くこと」の評価例

<p>1 評価の観点：外国語理解の能力</p> <p>2 評価規準例：(適切な聞き取り)まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。</p> <p>3 評価の場面：第3学年定期テスト</p>
<p>4 評価テストの実際</p> <p>問：これから英文を放送します。その内容を日本語で要約したものが問題用紙に書かれています。(①)～(⑤)に適する日本語または数字を書き、要約を完成させなさい。英文は2回放送します。</p> <p><放送原稿></p> <p>Tom and Rob have a little sister, Beth. She will be nine years old next Monday. Last Sunday, they wanted to buy her a birthday present, so they went to a department store. They were looking for a teddy bear for Beth. A clerk told them that the toy section was on the 8th floor, so they went there by elevator. They were looking at many kinds of teddy bears for a while. At last, they found a very pretty teddy bear. They were sure that Beth would like it, so they bought it. After that, they got home at five. They had a good time.</p> <p>要約：トムとロブは妹がいる。彼女の名前はベス。彼女は来週の月曜日に(①)歳になる。先週の(②)曜日に、トムとロブはベスの(③)を買うためにデパートに行った。(④)で8階まで行き、しばらくテディーベアを見ていた。やっとかわいいテディーベアを見つけてそれを買った。二人は、きっとベスが気に入ってくれると思った。その後、(⑤)時に家に着いた。楽しい一日だった。</p> <p>5 配点：各3点×5問=15点</p> <p>6 具体的な評価規準例：A = 4問以上正解 B = 3問正解</p>

これらのテストの結果として得られた評価を累積して総括的評価につなげるにあたっては、○×などを用いた簡素で効率的な換算法や、各観点に該当する評価を数値化して換算するなど、学校ごとに共通理解を図り、適切に工夫していただきたい。

イ パフォーマンステスト

(ア) スピーチによるテスト(例：「自己紹介」「友人の紹介」「将来の夢」「私が尊敬する人」など)

(イ) ペアやグループの発表によるテスト

例1：ある文法事項を用いて30秒のコマーシャルを作成しビデオをとろう！

例2：寸劇をしてビデオをとろう！(“Red Demon and Blue Demon”など) 例3：スキットの発表

(ウ) 音読テスト(例：正しい強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けた音読)

(エ) 面接によるテスト

①作成上、実施上の留意点

- ・全く同一問題で全員に面接テストを行うのか、難易度の均等な、または難易度別の数種類の問題を用意しておくのか、あらかじめ決めておく。
- ・どのような時間に、何人実施するかを決め、実施期日、時刻等による不公平をなくすための措置を講じておく。
- ・音量、スピード等の要素が加わるため、筆記テストに比べて評価の信頼性を保つことが難しい面がある。あらかじめ評価規準を十分に検討して決めておき、それを生徒にも明示して評価する。

②面接による「話すこと」の評価例

1 評価の観点：外国語表現の能力（適切な発話）
2 評価規準例：○与えられたテーマについて自分の意見をまとまりよく話すことができる。 ○ALTの質問に適切に回答することができる。 ○つなぎ言葉を用いたり、知っている語句や表現を利用したりして、コミュニケーションを継続しようとしている。
3 評価の場面：全学年の各学期末における面接テスト
4 評価テストの実態 ①スピーチ用のトピックを数種類用意する。 ②生徒に上記のトピックの中からテーマを一つ選択させ、それに基づいて1分以内のスピーチを行わせる。 ③生徒のスピーチ終了後に、ALTと英語でQ & Aを行う。
5 配点：全体で20点満点
6 具体的な評価規準例：A ○与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 ○尋ねられたことに対して適切に回答することができる。 (○点以上) B 上記の二つの規準のうち一つの規準を達成している。 (○～○点) なお、評価に際しては、評価票等を用いて教師が評価する。更に、生徒自身が活動を振り返るために自己評価も行わせたい。また、各校の実態に応じ、複数回行われる場合は、○×を用いた評価方法もある。

(2) 自己評価カード及び相互評価カード

ア ねらい

自己評価カードは、総括的評価に用いるわけではないが、指導に生かすために重要である。ねらいは大きく二つある。一つは、教師にとって外から観察しにくい情意面の評価などを、生徒に自己申告させることでその後の指導の参考資料とすることである。また、カードを継続的に記録・提出させ、評価を累積していくことで、一人の生徒の活動の質や量の変化、また問題解決への態度の変化などもとらえることができる。もう一つは、生涯学習の観点から、生徒の自己教育力を伸ばすことである。生徒が活動に取り組む際、その活動のねらいや到達目標、留意点が明確になっている必要がある。そのいくつかを自己評価カードの中に具体的に示すことによって、生徒はどんなことに注意しながら活動すればよいかを明確に理解することができる。これらの態度を育成することは、将来においても、主体的に外国語学習を進めていく力を養うことにつながる。

相互評価カードのねらいは、到達目標を明らかにし、客観的に課題を把握することにある。生徒同士が互いによい点を見付けたり、励まし合う相互評価カードを活用したりすることによって、自分をより深く知り、客観的に自分の学習状況を見つめることにつながる。

イ 作成上の留意点

- (ア) カードは簡単に記入できるものであること。
- (イ) 評価項目は生徒に分かるやさしい言葉を用いて示し、生徒に活動のねらいを明確に理解させること。
- (ウ) 観点別学習状況の評価の四つの観点、活動内容に応じてバランスよく設けられていること。
- (エ) 同じ活動であっても、学年によって評価項目に発展性をもたせる等工夫すること。
- (オ) 生徒が自由に記述できるコメント欄を設け、活動中にどんなことを考えたか、どんな点に困難さを感じたか、次回はどのようにしたいか等を書けるように工夫すること。
- (カ) 教師が随時コメントを記入できるようにし、常に生徒と教師の評価との整合性が保たれるように工夫すること。

6 指導と評価の一体化

(1) 「目標」と「評価」から指導の工夫・改善へ

「第3 指導と評価の実際」【P.161】で例示したように、「単元の目標」「本時の目標」を定めたら、具体的な評価規準を設定し、指導計画（指導案）を作成することとなる。そして授業（指導）の中で、行動観察やテストなどにより適切な学習評価を実施する。学習評価の目的は、生徒の学習の到達度を確認するだけでなく、その結果を生かして教師自らの指導方法を見直し、工夫改善できるようにすることでもある。したがって、評価の結果「C：努力を要する」状況である生徒に対し、その生徒を「B：おおむね満足できる」状況に伸ばすための具体的な手立て（指導）、同様に「B：おおむね満足できる」状況の生徒を「A：十分満足できる」状況にするための具体的な手立てを、指導計画の中に示すなど、指導方法の工夫・改善に結び付ける視点も不可欠となる。以下に一例を挙げる。

(例) [本時の目標] (※一部のみ)



・動詞の過去形を用いて、夏休みに自分が行ったことについて、読み手に正しく伝わるように英文を書くことができる。

[評価規準] <内容のまとめり：書くこと> (評価方法：ワークシート)

(正確な筆記) ・動詞の過去形を用いて、夏休みに自分が行ったことについて書くことができる。

『A：十分満足できる状況』…動詞の過去形を適切に用いて英文を書くことができている。

『B：おおむね満足できる状況』…いくつかの動詞の過去形に誤りがあるが、おおむね内容が伝わるように英文を書くことができている。

(A評価にする手立て) →動詞にアンダーラインを引かせ、正しい過去形になっているかを確認させる。

『C：努力を要する状況』…正しい英文を書くことができない。

(B評価にする手立て) →教科書の例文を参考に、単語を置き換えることで英文を作れるよう指導する。

(2) 評価の内容

評価を行う際には、「学習したこと（指導したこと）を評価する」という意識を忘れてはならない。「目標」や「評価規準」が一人歩きすると、十分な学習（指導）を行っていないにもかかわらず、生徒の結果だけを見て評価を行ってしまうことがある。「指導と評価の一体化」とは、指導したことを評価し、その結果を受けてさらに次の指導へとフィードバックを行うことである。そのためにも、各学校において指導計画の見直しなど、定期的実施していくことが必要である。

(3) 授業改善の視点

学習評価を行う際のキーワードは、「簡素で効率的」である。学習評価を意識しすぎるあまり、1時間の授業の中で、四つの観点すべてを評価項目にしたり、生徒の学習活動を行動観察する場面が5～6回も計画されたりしていることがある。これでは「評価のための指導」に陥ってしまう。

1時間の授業における目標（ねらい）と評価規準は絞り込み、単元や年間の指導計画を通して四つの観点による目標と評価をバランスよく計画することで、授業改善を図っていただきたい。

【授業改善の第一歩】

○授業のねらいを明確にする。…1時間の授業のねらいは、一つか二つで十分である。

○ねらいに対応した評価規準を設定する。(1時間ごとに絞り込まれた評価規準の設定)

…授業のねらいに合わせて、評価規準も一つか二つにする。

○適切な方法による評価

…評価のための指導にしない。あくまでも、十分な指導があった上での評価である。

7 小学校外国語活動との関連

(1) 小学校との連携の観点

今後、小学校と中学校の連携を進めていくことが求められている。小学校外国語活動の年間計画の作成、中学校外国語科の年間指導計画の改善を通して、5年間を見通したカリキュラムの作成も必要になってくる。また、中学校教員が小学校外国語活動における指導内容、児童のコミュニケーションを図ろうとする態度の育成状況等、その実態を正しく把握することは中学校での円滑な接続に不可欠である。そのためにも、中学校区ごとに小・中学校合同の研究推進組織を設立し、指導内容や児童の学習状況についての情報交換、指導案の作成、評価規準の共有、お互いの授業参観などを行い、小学校教員と中学校外国語科教員が合同で研修を行っていくことが必要である。

(2) 評価の観点

《評価の観点とその趣旨の比較》

小学校外国語活動	中学校外国語
<p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 	<p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
<p>【外国語への慣れ親しみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<p>【外国語表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語で話したり聞いたりして、自分の考えを表現している。
<p>【言語や文化に関する気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることに気付いている。 	<p>【外国語理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。
<p>【言語や文化についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。 	<p>【言語や文化についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

「体験的」という表現は、小学校のみ

表のとおり、小学校外国語活動と中学校外国語の評価の観点は、その継続性が重要である。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」に関しては、小学校段階で培ってきたものをそのまま伸ばしていかなければならない。また、小学校の外国語活動で慣れ親しんできた外国語の音声や基本的な表現を、中学校の外国語の授業では「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」として、「～できる」といえる段階まで発展させる必要がある。同時に、言語や文化への気付きを、文法や基本的な語彙、表現などの定着にまで発展させなければならない。

これらのことを踏まえ、指導計画を作成する段階から小学校との連携を図り、中学校で外国語を学ぶ生徒が小学校でどのような活動を通して、どのようなことを学んできたのか、その実態を正しく把握することが不可欠である。詳細については「埼玉県小学校教育課程評価資料」の『外国語活動【P.195～】』に、小学校外国語活動の評価の観点及び規準が示されている。同書を確認いただき、小・中学校の教員間の連携を深めながら、小学校における外国語活動と中学校の外国語の授業の接続を図っていただきたい。

8 長いスパンでの総括的評価計画

(1) 形成的評価から総括的評価へ

これまでに紹介してきたように、それぞれの指導場面において、具体的な目標に対する生徒の学習の成果を把握し、その後の学習を促すために行う評価を形成的評価と呼ぶ。それに対し、総括的評価とは、指導過程の最後に行い、学習者の最終的な到達度を確認するためのものである。年度末のテストや、生徒や保護者に対して学習の成果や到達度を報告するための通信簿、1年間の学習状況をまとめた生徒指導要録に記されるものなどが総括的評価である。

総括的評価は、一定の期間に教師が生徒の学習状況や学習の到達度を観察、記録してきたものの総括（まとめ）となる評価である。評価する場面や評価項目は指導計画により様々であるが、*補助簿などを効果的に活用し、評価の公平・公正を示す説明責任を果たすものでなければならない。

*「補助簿」に関しては、平成14年2月に発行された先の「埼玉県中学校教育課程評価資料（埼玉県教育委員会）」を参照

(2) 評価から評定へ

各観点別学習状況の評価が決まったら、それを基に評定を決定することになる。評定は、各観点別学習状況の評価に基づき、5段階による目標に準拠した評価（絶対評価）とする。5段階の評定を決めるにあたっては、各観点別学習状況の評価のA、B、Cを数値化し、その合計から判断したり、ある特定の観点を重視した傾斜配点として判断したりするなど、評定の算定方法（判断基準）については各学校において共通理解を図った上で工夫する。

この際、以下の2点に留意されたい。

- ア 例えば、四つの観点別学習状況の評価がすべてAならば評定は「5」、すべてBならば「3」、すべてCならば「1」などのように、教科部会等で5段階の評定を付ける判断基準を統一しておくこと。
- イ 教科部会等で決定した判断基準を、あらかじめ生徒や保護者に周知しておくこと。

(3) 評価の波及効果として

学習評価を行うことの本質は、生徒の到達度を知り、教師が自らの指導方法を振り返り、改善していく一助とすることであると同時に、生徒自身が今後努力すべき点を具体的に理解することで、学習に対する意欲を高めることにある。これらが評価の波及効果である。単にA、B、Cと到達度を出したり、それらを基に評定を出したりするだけではなく、その評価が生徒の進歩・成長のためであるということ意識した上で評価計画を立てられたい。